

2021 入学式式辞

ご入学おめでとうございます。

公立諏訪東京理科大学の教職員を代表して、新入生の皆様・ご家族の皆様に心からお祝いを申し上げます。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため規模を縮小して入学式を執り行うこととなり、ご父兄様などに参加を遠慮いただくこととなりました。

大変残念に思っています。

また、こうした状況にも関わらず、ご臨席を賜りました茅野市長であり、公立諏訪東京理科大学の設立組合の組合長、今井 敦様、宮坂ゴム株式会社代表取締役で本校理事の宮坂孝雄様に厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症流行終焉の出口が少し見えてきました。ワクチンの接種が始まり、治療薬の開発も最終局面を迎えていると思います。

今回のパンデミックに関する教訓の一つは、将来のパンデミックの発生を予測してその準備をしていた国、台湾、ベトナムなどの国の被害が極めて小さいことだと思えます。

これらの国では、サーズの教訓から対策を立てていたと言われていました。

WHO は、パンデミックはかなりの確率でいずれは起きると予想し以下のような警告をしていました（「グレート・リセット」クラウド・シュワブ&ライエリ・マルレ著）。

- ① 経済成長によって人と野生動物が共存せざるを得なくなった人口密集地帯にパンデミックが現れる。
- ② パンデミックは人の移動と交易のためのネットワークを利用し、迅速、かつ静かに広まる。
- ③ 封じ込めをものともせず、多くの国に広がる。

今回の新型コロナウイルス感染症によるパンデミックをほぼ正確に予測していたと思いませんか？

にもかかわらず、対策を十分に立ててこなかった国が多かったのではないのでしょうか？

今回のパンデミックは、経済的に大変大きな被害を与えています。米ハーバード大学のデビッド・カトラー、ローレンス・サマーズ両教授は、新型コロナの被害総額が米国だけで約 1600 兆円、米国の GDP の 75 % 相当の額になると推計しています（日本経済新聞、12 月 2 日朝刊）。その金額のいくらかを前もってパンデミック対策に割り当てていたらもっと被害を抑えられていたのではと残念に思っています。日本を含め、多くの国も同様だと思えます。

今回のもう一つの教訓は、パンデミックは本来的に地球規模の課題であり、国際協力体

制を築くことがこの課題解決には重要であるということを感じさせてくれたことだと思います。今回、ワクチンを約1年で開発しました。エボラの場合は5年かかりました。通常10年かかると言われています。また、今回のパンデミックによる死亡者数の総人口に対する割合は、2年間で終息すると仮定すると、0.06%と推定されていて、過去のパンデミック、1918年のスペイン風邪の1~6%、14世紀のペストの30~40%よりかなり低い値です。

これらは、治療法やウイルスの遺伝子等の情報を完全ではないにしろ世界で共有した成果だと思っています。

かつて、感染症と闘いその成果を世界と共有し、世界を感染症の脅威から救った研究者がいます。ロベルト・コッホです。

彼は、炭疽菌、結核菌、コレラ菌の発見者です。また感染症の病原体を証明するための基本指針となるコッホの4原則、①患者の中にその菌が存在することを証明する、②その菌を分離培養する（純培養）、③その菌を動物に接種し、類似症状が引き起こされることを証明する、④発病した動物から同じ菌が再分離できる、を提唱し、感染症研究の開祖として医学の発展に貢献しました。

ロベルト・コッホは、1843年に、ドイツのハノーバーに近い町クラウシュタールで生まれました。花や虫などをとってきては、顕微鏡でのぞいて観察するのに夢中になっていた子供だったそうです。

やがて中学校を卒業すると、コッホの理科の才能を認めた教師のすすめで、ゲッチンゲン大学へ進み医学を学びました。

29歳のコッホは、ウォルシュタインという町で医者として、また衛生技師としてはたらきはじめました。

そのころヨーロッパの各地では、牛や羊をおそう、炭疽病というふしぎな病気が流行していました。

悪魔のしわざではないかと恐れられていましたが、コッホは、「きっと、原因は微生物にちがいない」考えたそうです。

何故か？

当時、パスツールが、いくつかの伝染病は細菌が病原体であるとの見解を示していました。その影響だと思います。

そして、コッホは大好きな顕微鏡観察で、病気にかかり死んだ牛の血から炭疽病菌を発見しました。

時として、科学の女神は、先人の考え方を学んでそこから出発した人に微笑むのだと思います。

1882年、コッホは「結核菌の発見」を発表しました。コッホが39歳の時です。結核は、当時のヨーロッパで病死する人の7分の1をしめるといふ、恐れられていた病気でした。そのころ結核は、原因不明の病気として恐れられていました。

結核を遺伝だといふ人もいましたが、コッホは、またしても伝染病にまちがいないと信じて研究を行い、結核菌を発見しました。

コッホは、結核菌の発見だけでは、真の社会貢献はできていないと考え、その対策などの研究をつづけました。そして、この小さな菌は、生きている体内でしか繁殖しないこと、太陽の光と熱に弱いことなどを発見しました。

加えて、人間が結核菌に感染したかどうかを確かめる方法、ツベルクリンを考え出しました。

コッホは、単に結核菌の発見者で満足する研究者ではありませんでした。世界の人々に、より直接的に貢献することを常に考えていた研究者だったのだと思います。また、この人々のためといふ意識が本人の持てる力を最大限に引き出したのだと思います。

私は、皆さんが自らの才能を開花させ社会で活躍するには、3つのことが重要だと考えています。

好きなことを見つけ夢中になること。

先人の知恵を学びそこからスタートすること。

そして、人々に貢献するといふ意識を持つこと。

私は、皆さんがこの大学で好きなことを見つけ夢中になって欲しいと願っています。それが、皆さんの隠れた才能を引き出す最も良い方法だと考えているからです。

そして、この大学で先人達の知恵を学び、そこからスタートして、世界に貢献するような人になって欲しいと願っています。

期待しています。

令和3年4月6日
公立諏訪東京理科大学学長 小越澄雄